

では、どうして幼児期からの漢字教育が望ましいのでしょうか。なぜ、書けなくてもいいけれど、読めることは不可欠なのでしょうか。

それは読書力を養うためなのです。本を読むためには、漢字が読めることがどうしても必要です。ひらがなだらけの絵本では、吸収できる内容には限度があります。与えられた最小限のものはわかるでしょうが、それ以上の発展はありません。

もし自分で本が読めたり、百科事典で調べることができるだけの漢字力がついたとすると、子どもの世界は大きく広がっていきます。本が読めるということは、言葉が増えることにつながります。言葉が増えることによって、表現力や感受性も豊かになります。

私たちが親として、してやるべきことは、子どもに本を読む力をつけてやることです。幼児期のうちにその能力をつけるための手助けとして漢字教育を行うことです。そして、そこから先は、子どもが自分から進んで本を読んで物事を吸収できる力を養う、すなわち「学ぶ」ということの喜びをわからせてやることです。

その後は、子どもの教育に関しては何もやらないことです。やたらと手を出すことはかえってマイナスです。そのうちに最初は何でも親に聞

いていた子どもが聞いて来なくなります。何でも自分でやりたい子どもは、自分で学習する喜びを知って成長していきます。読書力がつくということは、子どもの世界が広がることにつながるのです。